

# 令和3年度 事業報告書

## 1. 会 員

### 1) 法人・団体会員

本年度入会	1 法人	株式会社 ACCESS (1 口)
本年度退会	1 法人	東邦電気産業株式会社 (1 口)
本年度休会	1 法人	東日本旅客鉄道株式会社 (1 口)
口数変更	1 法人	株式会社 フジクラ (4 口減)
本年度末会員数	1 0 1 法人・団体	(総会議案参考資料のとおり)
本年度末口数	3 1 0 口	(総会議案参考資料のとおり)

### 2) 個人会員

本年度入会	8 名	
本年度退会	4 名	
本年度末会員数	9 7 名	(総会議案参考資料のとおり)

## 2. 役員、顧問等

### 1) 理 事

本年度就任	7 名	岡 俊彦、 斎藤 幸司、竹島 尚弘、 根本 孝七、東原 敏昭、日高 邦彦、 松村 年郎
本年度退任	7 名	井上 俊雄、浦瀬 賢治、大久保 仁、 小道 浩也、武智 芳博、浜崎 祐司、 横山 明彦
本年度末人数	1 4 名	(総会議案参考資料のとおり)

### 2) 監 事

本年度就任	1 名	高市 和明
本年度退任	1 名	福田 隆
本年度末人数	2 名	(総会議案参考資料のとおり)

### 3) 顧 問

本年度委嘱	5 名	(総会議案参考資料のとおり)
-------	-----	----------------

#### 4) 幹 事

本年度就任	2名	遠藤 智志 下田 一彦
本年度退任	2名	饗場 潔 藤岡 直人
本年度末人数	4名	(総会議案参考資料のとおり)

### 3. 会 議

#### 1) 総 会

本年度開催回数	3回	第82回通常総会を令和3年6月2日に開催 第1回臨時総会を令和3年7月16日、第2回臨時総会 を11月12日に開催
---------	----	---

#### 2) 理 事 会

本年度開催回数	8回	第725回～第732回
---------	----	-------------

### 4. 定 款

平成24年4月1日一般社団法人電気協同研究会の定款登記

### 5. 専 門 委 員 会

#### 1) 委 員 会

本年度終了 3 委員会

- ① 変電設備の保全高度化とアセットマネジメント専門委員会
- ② 水力発電所機器専門委員会（水力発電所主要機器購入仕様標準）
- ③ 電力系統を取り巻く環境変化がもたらす系統安定化システムの課題と対応専門委員会

昨年度から継続中 4 委員会

- ① 自然災害時の配電設備における復旧対応の高度化専門委員会
- ② 地中送電設備の保全技術高度化とアセットマネジメント専門委員会
- ③ 電力用通信のレジリエンス強化技術専門委員会
- ④ 架空送電設備の絶縁設計調査専門委員会

本年度設置 2 委員会

- ① 電力系統用パワーエレクトロニクス設備の保全ガイドライン専門委員会
- ② デジタル変電所の監視制御・保護リレーシステム専門委員会

#### 2) 委 員 数

専門委員会	268名
幹事会・作業会等	379名

### 3) 会議開催回数

専門委員会	15回
幹事会・作業会等	110回

## 6. 研究討論会

テーマ 「カーボンニュートラル実現に向けた水素活用と電力システムのイノベーション」

実施方法 録画の Web 配信（予約視聴）

収録日 令和3年12月13日（月）

配信期間 令和4年2月1日（火）～2月28日（月）

司 会 大阪府立大学 大学院工学研究科 教授 石亀 篤司 氏

基調講演 (公財)地球環境産業技術研究機構 システム研究グループ  
グループリーダー・主席研究員 秋元 圭吾 氏

講 演 川崎重工業(株) 水素戦略本部 プロジェクト総括部長兼推進部長  
新道 憲二郎 氏

東芝エネルギーシステムズ(株) 水素エネルギー事業総括部  
技術部 フェロー 山根 史之 氏

電源開発(株) 技術開発部部長 西田 健太郎 氏

関西電力送配電(株) 企画部長 藤岡 道成 氏

パネルディスカッション

テーマ：2050年カーボンニュートラル社会の展望と2030年に向けたアプローチ

コーディネーター：石亀 篤司 氏

パネラー：各講演者

録画視聴者（予約者） 320名（うち有料視聴者：281名）

討論会概要

近年、グローバルに脱炭素の機運が高まっており、国内においても「2050年カーボンニュートラル」が宣言され、足元では、2030年CO<sub>2</sub>排出量46%削減に向けて取組んでいくことが議論されている。その中で、“水素”は再生可能エネルギーと並ぶキーファクターに位置付けられており、発電・産業・運輸など幅広い活用が期待されている。電力システムにとっても水素は、発電燃料としての利用はもちろん、水素社会の到来によって電力需要が変化する可能性があり、とりわけ再生可能エネルギーの発電余剰電力等を用いた水電解による製造は、調整力としての活用も期待されるなど、影響が大きいものと考えられる。

そこで、令和3年度の研究討論会では、水素活用が進んだカーボンニュートラルの社会像や、水素の製造・輸送、利用など最新の要素技術を紹介するとともに、2050年に向けて、水素活用と電力システムをいかに連携させるか、また2050年の姿を見据えて2030年に向けてどのようにアプローチしていくか、意見交換を行った。

## 7. 刊 行 物 （『電気協同研究』の発刊）

発 刊 数 2号

- ① 第76巻第4号 「次世代を担う技術者の育成における諸課題と今後のアプローチ」  
令和3年5月発刊、 90頁、 530部印刷
- ② 第77巻第1号 「電力系統を取り巻く環境変化がもたらす系統安定化システムの課題と対応」  
令和4年2月発刊、 169頁、 780部印刷

## 8. 講 習 会

- ① 「電力系統を取り巻く環境変化がもたらす系統安定化システムの課題と対応」講  
習会
  - 開催日時 第1回 令和4年3月18日(金) 13時30分～17時00分  
第2回 令和4年3月29日(火) 13時30分～17時00分
  - 開催方法 第1回、第2回とも、Web講習会として実施
  - テキスト 第77巻第1号 「電力系統を取り巻く環境変化がもたらす系統安  
定化システムの課題と対応」
  - 講 師 関西電力送配電㈱ 乾 貴行 氏 他8名
  - 受講者 第1回：53名（申込者数）  
第2回：46名（申込者数）

以 上